大使閣下、スワミ・スヒターナンダ師、スワミ・メーダサーナンダ会長、ご来賓のみなさま、

スワミ・ヴィヴェーカーナンダ生誕１５０周年祝賀記念行事閉会式の歴史的な機会にあたりまして、日本サティアサイ教育協会の全ての教師を代表いたしましてスワミ・ヴィヴェーカーナンダの蓮華の御足に心からのお祈りをお捧げ致します。

サティアサイ教育協会の姉妹団体であるサティヤ サイ出版協会の機関紙「サイラムニュース」が２０１３年５月号でちょうど１５０回目の発刊を迎えましたが、その記念号には偶然にも、神の見計らいによりまして、スワミ・ヴィヴェーカーナンダ生誕１５０周年へのお祝いの記事が掲載されておりました。

スワミジとの邂逅（かいごう）は、故、Ｈ．ガジャリア氏と共に、先駆者としてスワミジの御教えを広めておられたラオ氏にお会いした１９７８年に遡ります。また、逗子にあります現在のお寺の再興に微力ではありますがお手伝いをさせていただくという恩寵にも恵まれました。これまで４０年間にわたりまして、インド思想・哲学を紹介させていただく栄誉をいただきましたが、機会あるごとに、インドの最も偉大な宝の一つとして、スワミ・ヴィヴェーカーナンダジを、展示会・書籍・講演等でご紹介してまいりました。

スワミジの御教えは海よりも深く、空よりも広いものであります。その御恩に報いる唯一の方法は、我々の日常生活の中でその教えを実践することであります。協会を担当する立場として、高校や大学にご紹介したスワミジの御教えを、私自身、実践することを心に留めております。教育に関するスワミジの最も重要な御教えは、「信念なき教育は不毛である」というものです。教育の究極の目的は「真我の科学」を知ることであります。そのためには、多くの忍耐や犠牲を伴う信念こそが極めて重要であると考えております。

今日の若い世代にもこの美徳が本来的に備わっておりますが、不運なことに、多くの場合、この美徳は内なる力として使われることなく、テレビやインターネットや娯楽など、外側の感覚的な欲望に向けて誤用されてしまっております。それらは身体的・精神的な弱さへとつながり、神への信仰を失うばかりか、自分自身をも見失ってしまう結果となります。多くの見識者によりますと、日本の若者には希望や力、そして将来のヴィジョンが欠けていると言われております。力強い新たな日本を再興するためには、スワミジの「信念と忍耐の教育」こそがカギを握っていると確信している次第です。

スワミジの３９年間という短くも栄光に満ちた人生は、人類にとって至高の教えに直接触れることのできる黄金の時代でありました。また、それ以降、今日に至るまで、世界中の何十万もの人々が、物質的にも、精神的にも、霊的にも、援助や導き、癒しや看護、忠告や助言を受け、変容し、更生を遂げてまいりました。

聖なるスワミジよ、私たち人類はあなたにどれほどの御恩をいただいているのでしょうか。どうか、この神聖なる閉会式におきまして、私どもからの感謝の祈りをお受けくださいますようお願い申し上げます。

永遠なるスワミジの御足に

サティアサイ教育協会

理事長　比良　竜虎

（２０１４年５月２５日　　清泉女子大学にて）